

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病害虫発生予報第4号（7月）

令和7年度病害虫発生予察注意報第3号

令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-41-9513

ファックス 0561-63-7820

令和7年度病害虫発生予報第4号（7月）

令和7年7月2日

愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	紋枯病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない 7月の気温は高い	± ±～- +
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測回数は平年並	± ±
	セジロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測回数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	やや多い	県全域	畦畔における6月の発生量は平年並 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数はやや多い	± +
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	+
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

・防除対策

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

カスミカメ類等の発生がやや多い状況です。出穂2～3週間前までに、斑点米カメムシ類の発生源となる水田畦畔のイネ科雑草を除草しましょう。また、今後イネカメムシの発生も予想されますので、6月2日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

〔イネ・フタオビコヤガ〕

一部のは場で発生を確認しています。多発生ほ場では、パダン粒剤4やトレボン粉剤DLなどで防除しましょう。

・留意事項

一部ほ場でいもち病（葉いもち）の発生が確認されました。今後のは場の発生状況に注意しましょう。詳細は本日発表の「イネいもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

イネ白葉枯病は幼穂形成期から出穂期までに発生が目立つと減収などの被害のおそれがあります。発生後の防除は困難なため、前年発生が多かったほ場では、出穂3～4週間前に防除しましょう。また、畦畔等の除草を徹底するとともに、浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行いましょう。

イネ縞葉枯病の発生を認めた場合は、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。詳細は6月19日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

6月下旬の巡回調査及び予察灯による調査では、セジロウンカの発生を確認していますが、トビイロウンカは現時点で発生を確認していません。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

ニカメイガについて、6月下旬に県内で行った巡回調査において、被害株率は0.53%（平年0.18%、前年0.11%）でやや多い状況でした。詳細は本日発表の「ニカメイガ情報第1号」を参照してください。

山間地域でイネドロオイムシによる被害が多いほ場がありました。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、オオタバコガの誘殺数がやや多い状況です。詳細は本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。また、シロイチモジヨトウの誘殺数が多い地域がありますので、ほ場の発生状況に注意してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
	黒点病	やや少ない	県全域	5月の枯枝の孢子形成量はやや少ない 7月の降水量は平年並か少ない	－ ±～－
	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月のモモの発生量は平年並	+ ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
モモ	せん孔細菌病	少ない	県全域	6月の発生量は少ない 7月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月の発生量は平年並	+ ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
ブドウ	べと病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	黒とう病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	角斑落葉病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
	円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-
	うどんこ病	少ない	県全域	6月の発生量は少ない	-
	コカイガラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

フロンサイドSCなどで防除しましょう。

[ナシ・ナシヒメシンクイ]

ディアナWDG、エクシレルSEなどで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

カネマイトフロアブル、ダニオーテフロアブルなどで防除しましょう。

### [モモ・ナシヒメシンクイ]

ディアナWDG、フェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

### [モモ・ハダニ類]

ダニオーテフロアブルなどで防除しましょう。

### [ブドウ・黒とう病]

6月17日発表の「ブドウ黒とう病情報第1号」を参照してください。

### [果樹共通・カメムシ類]

5月22日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。農薬散布にあたっては、収穫前日数に十分注意して散布しましょう。

#### ・留意事項

クビアカツヤカミキリの成虫が確認されています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期です。果樹園（特にモモ）で発生を確認しましたら、直ちに捕殺し、農業総合試験場病害虫防除室もしくは最寄りの農林水産事務所農業改良普及課に連絡をお願いします。詳細は、本日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参照してください。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第3世代	7/4	7/6	6/30	7/2	7/4	7/4	7/3	7/3	7/5	7/4	第2世代	7/4
第4世代	7/20	7/22	7/16	7/18	7/20	7/20	7/19	7/20	7/22	7/20	第3世代	7/24
(前年)	7/21	7/23	7/17	7/19	7/21	7/21	7/20	7/19	7/24	7/19	(前年)	7/26
前年差	1日早	1日早	1日早	1日早	1日早	1日早	1日早	1日遅	2日早	1日遅	前年差	2日早

各地のアメダス平均気温から予測。7月1日までは実測値を、それ以降は平年値から+2.8℃補正した値を用いて計算。補正值は気象庁発表の向こう1か月の気温予測データを参考にした。

前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

## 野菜

#### ・留意事項

*Alternaria japonica* Yoshii によるブロッコリーの黒すす症状が東三河地域で確認されています。詳細は、本日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号」を参照してください。

イチゴ炭疽病の育苗ほ場での発生が多くなる時期です。農薬の予防散布に努めましょう。発病が見られた場合、発病株とその周辺の株は直ちに抜き取り、適切に処分しましょう。

アザミウマ類やコナジラミ類はウイルスを媒介します。発生がある施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

シロイチモジヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。収穫残渣は本虫の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。防除対策等は、本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

トマトキバガによる被害がトマト施設内で確認されており、フェロモントラップでの誘殺数も一部地域で増加しています。被害葉及び被害果は適切に処分し、作終了後は施設を密閉して本虫を死滅させましょう。また本虫はトマト苗を食害する恐れがあります。育苗期間中はコナジラミ類と合わせて、両害虫に適用のある薬剤で防除しましょう。本

虫の詳細については、令和6年9月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参考にしてください。

サツマイモ基腐病は全国で発生しており、県内では過去2事例発生しています。排水対策を行うとともに、早期発見に努め、葉のしおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発生株を適切に処分しましょう。サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和4年度版）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html)

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	白さび病	平年並	山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	アブラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温は高い	- +
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
	アザミウマ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 7月の気温は高い	+ +

### ・防除対策

#### 〔キク（露地）・ハダニ類〕

発生ほ場では、カネマイトフロアブルやコロマイト乳剤などで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょう。

#### 〔キク（露地）・アザミウマ類〕

発生ほ場では、ファインセーブフロアブルやハチハチ乳剤などで防除しましょう。

#### 〔キク（露地）・オオタバコガ〕

フェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。防除対策等は、本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

### ・留意事項

シロイチモジヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。発生状況に注意し適切に防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台6月26日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率70%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：10% 高い：80%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%